

佐賀建設新聞

発行所

株式会社 建設新聞社

〒849-0301

小城市牛津町乙柳1145-7

TEL 0952-66-5750 (代)

FAX 0952-66-5751

購読料 月額5,775円(税込)

毎週火・木・土曜日発行

社団法人日本専門新聞協会会員

ホームページ

http://www.kensetsunews.co.jp

e-mailアドレス

kssaga@lime.ocn.ne.jp

本県からも「日本建設技術」「ハットリ工業」が発表

環境・農業・バイオなど40事例

第3回建設トップランナーフォーラム

新事業や技術開発に挑戦する建設業者が取り組みを発表する第3回建設トップランナーフォーラムが、7月24日と25日に東京・港区の建築会館で開かれ、2日間で昨年の第2回を約100人上回る延べ約600人が参加した。建設企業による環境ビジネスや農業参入をテーマにしたアグリビジネスをはじめ、林業との異業種交流による森林再生、地方再生のための新技術など40事例を全国の「トップランナー」たちが紹介した。

初日の24日は、ガラス廃材を再資源化した新素材「ミラクルソル」を、韓国での斜面緑化や、錦鯉繁殖用の水質浄化材としてベルギー・シンガポ

する技術を確立した日本建設技術(唐津市)が、

環境緑化の保水材や水産

養殖のろ過材として活用



工夫によって生き残りの道を切り開くことだ。このようなフォーラムの開催はたいへん意義深い」と述べ、参加企業の努力に敬意を表した。

2日目の25日は3会場に分かれ、ワークショップ形式で▽アグリビジネス11事例▽環境ビジネス7事例▽環境・建設技術4事例▽環境・森林再生3事例▽環境バイオマス4事例▽地方再生・新技術4事例の計33事例を紹介した。



渡辺善美・金融・行革担当大臣

介。国土交通省や環境省などから招いたアドバイザーが、各事例に対して感想やアドバイスを述べた。環境ビジネスを紹介する会場では、日本建設技術の原社長などの司会で、各社がリサイクル事業などを紹介。本県から参加したハットリ工業(神崎市)は、浮遊アスベストを瞬時に測定できる「フアイバーネットワークモニター」と、工事中のアスベスト飛散を防止できる消塵器「フアイバーシヤット」をセッットにした「アスベスト除去技術」を紹介し、外資を含め不動産投資が進む都市部への進出を可能にした、と紹介した。

事例発表の終了後、自民党の渡辺善美金融・行革担当大臣が地域活性化や世界の金融取引引きの現状などを話題に特別講演を行った。

フォーラムの主催は、

新事業や技術開発に取り組む建設会社とその支援者が集まってつくる「建設トップランナーフォーラム」(代表幹事・和田章東京工業大学教授)と日本青年会議所青年部会。国土交通省、環境省などのほか、建設新聞社も参加する「地方建設記者の会」が後援している。